



令和2年度

学校経営書



伊豆市立 中伊豆中学校

〒410-2505 静岡県伊豆市八幡 407

TEL<0558>83-0032

FAX<0558>83-0461

E-mail n-jhs@school.city.izu.shizuoka.jp

1. 学校の概要

- 1 校 名 伊豆市立中伊豆中学校
- 2 所 在 地 静岡県伊豆市八幡407 (東経138度59分 北緯34度50分 海拔140m)
- 3 学校規模 生徒数 110名 学級数 4学級 常勤職員数：県費14名 市費2名
- 4 校 地 等 総面積 21,837 m² 運動場 10,107 m² 建物敷地 8,783 m² その他 2,945 m²
- 5 沿革の概要

昭和38. 八岳中学校、八幡中学校、白岩中学校が統合して中伊豆町立中伊豆中学校創立

4.1 3教場で分散教育を実施

39.3 校歌制定 作詞・木俣修、作曲・沖不可止

3 校舎一期工事終了

10 校舎二期工事終了、新校舎竣工

11 技術・家庭科室竣工

41.1 屋内体育館竣工 (同年4月プール竣工)

44.8 運動場に散水施設設置

48.9 完全給食を開始

53.1 テニスコート工事完成

53.1 前庭に校訓碑建立 (同年8月 校舎南側窓サッシ入れ替え工事)

58.12 東部教育事務所長杯授賞式

59.8 東側3階校舎の耐震補強工事完了

60.8 部室(6室)設置、体育器具庫改築

9 西側3階校舎の耐震補強工事完了

62.4 文部省指定道徳教育協同推進校 (同年12月柔道場竣工)

63.3 テニスコート新設

10 文部省指定道徳教育協同推進校研究発表会

H2. 11 体育館屋根全面塗装工事・補修工事

3.8 OA教室床改修・教室廊下の壁改修

4.2 生徒会が善行表彰を受ける (県積善会)

5 日本善行会より善行表彰を受ける

7 コンピュータ教室にコンピュータ21台設置

5.11 体育館防水工事 (同年12月グラウンド整備・散水設備設置)

6.4 第13期静岡県福祉教育実践校指定 (3年間)

7.1 体育館の屋根防水工事・電気改修工事

8 給水管改修工事・防球ネット改修 (東側) 工事、9 教室にテレビ・ビデオ設置

9.1 生徒会が善行表彰を受ける (県積善会)

9.9 コンピュータ38台設置、放送室を3階に移転

10.8 部室増築工事、技術科室屋根塗装工事、電源改修工事

11.8 体育館屋根塗装工事、外トイレ・グラウンド改修、グラウンド防球ネット

12.1 全日本交通安全協会長優良学校受賞

12.4 文部省地域指定「学校におけるボランティア等活用推進事業」(2年間)

14.2 はごろも教育奨励賞学校賞受賞

15.8 1階相談室・事務室拡張工事 プール解体工事

16.3 伊豆市光ファイバーネットワーク設置工事

16.4 4町の合併に伴い、伊豆市立中伊豆中学校となる

23.2 技術科棟耐震補強工事完了

25.8 体育館建築工事完了

27.3 外トイレ改修

30.7 校舎内トイレ改修

R元.3 小さな親切運動あいさつ運動推進校指定

2 柔道場改修工事

道徳教育助成賞受賞

静岡県学校保健活動優良校受賞

2. 経営の基盤

(1) 学区の概要

平成16年4月1日の町村合併により、中伊豆町、修善寺町、天城湯ヶ島町、土肥町の4町をもって伊豆市が発足した。生徒は、大見、大東、八岳の各小学校から進学していたが、平成23年4月に中伊豆小学校に統合になった。中伊豆地区は伊豆半島の中央部に位置し、東は伊東市、西は修善寺地区及び天城湯ヶ島地区に界し、南は天城連山を境に賀茂郡に、北は年川を境に修善寺地区に接している。中伊豆地区は東西10.66km、南北17.22km、総面積110km²で、そのうち山岳森林地帯の面積は、99km²で全体の90%を占めている。

(2) 学級編成

学	組	男	女	計	学年計	会員数	学年	組	男	女	計	学年計	会員数
1年	1	17	17	34	34	24	2年	1	14	18	32	32	31
3年	1	11	11	22	44	22	全 校		54	56	110		99
	2	12	10	22		22							

(3) 地区別生徒数

地区	筏貴姫 僧之場湯	菅引	地藏堂	原保	戸倉野戸	中東	持バ ル越	柳宮梅 瀬上木	八幡	梶山	関野	元村	小川	久保	清西	上ニ 和ー 田イ	学区外	計
生徒数	501	2	8	9	41	8	02	006	20	4	12	12	10	1	32	63	0	110
教員数	401	2	7	7	41	8	02	006	18	4	12	11	8	1	32	52	0	99

(4) バス通学者

	1年	2年	3年	合計	徒歩
修善寺方面	13	10	14	37	13
筏場方面	6	10	14	30	9
伊東方面	2	3	3	8	13
合 計	21	23	31	75	35

(5) 教職員一覧表

No.	職名	氏 名	担 任 教 科 等	No.	職名	氏 名	担 任 教 科 等
1	校長	高橋 直樹		15	初任指導	谷川 明彦	修中・天中兼務
2	教頭	樋口 正則	技術	16	市事務	藤原 尚子	
3	教諭	山田 清直	教務 1主 数学	17	用務員	佐藤みつ代	
4	教諭	荒川利津子	3-2 3主 研修 特支コ 音楽	18	支援員	渡邊みすず	
5	教諭	佐藤 弘実	3-1 進路 社会	19	司書	下村 純子	
6	教諭	本間 美穂	2主 生指 英語	20	非常勤講師	小野喜代美	心の教室相談員
7	教諭	遠藤 尚寛	2-1 特活・生徒会 国語	21	非常勤講師	鈴木 浩二	美術
8	教諭	藤江 航大	2年 清掃 数学	22	非常勤講師	山中由貴子	家庭科
9	養護教諭	矢岸由佳利	保健 給食	23	ALT	ガレス・モリス	
10	栄養教諭	日吉 千佳	食育	24	SC	竹内 秀美	
11	事務主任	鈴木 彰		25	SSW	小川 厚子	
12	教諭(臨)	浅賀 信一	3年 情報 安全 理科	26	SSS	正垣眞珠子	
13	教諭(臨)	丸山 美穂	1-1 人権 福祉 保体	27	情報支援員	城所 長弘	
14	教諭	落合 孝弘	大学院派遣				

3 学校経営方針

新学習指導要領の趣旨である生きる力の育成に向けて、教育課程を工夫する。課題である（自主性、主体性、コミュニケーション能力、自尊感情）を育成する手段として「ふるさと」との関わりを踏まえ、学校の活力を生み出し、地域に力を与える教育活動の充実に努める。学校教育目標「夢を叶える」を達成するために、キャリア教育の充実に組織的な学校運営で、温度差のない学年・学級経営に務め、教職員の意識改革を進めると共に、自立を促し学校力の向上を目指す。そこで、本校の生徒の実態を踏まえて、令和2年度は次の5点（①教育観の共有②協育③共育④響育⑤郷育）を学校経営の基本方針とする。そして、生徒が、保護者が、教職員が「中伊豆中学校で学んでよかった」と思える学校づくりに努めていきたい。

- | | | | |
|---|--------|---|--------------------------------------|
| 1 | 教育観の共有 | ： | 生徒観・指導観・授業観を共有し授業改善の推進を図る |
| 2 | 協育 | ： | 全職員が一丸となって、生徒理解を土台とする |
| 3 | 共育 | ： | 家庭・地域・行政・専門機関との連携を図り、共同体として生徒の育成にあたる |
| 4 | 響育 | ： | 道徳教育の充実に努め、心に響く教育を推進し自己肯定感を醸成する |
| 5 | 郷育 | ： | ふるさと伊豆への関心を高めるための教材開発をし地域理解を深める |

4 職員研修全体構想

学校教育目標

夢を叶える

伊豆市統一研修テーマ「学ぶ意欲を育む魅力ある授業づくり」

～学び手の視点で思考・判断・表現力をつなぐ～

中伊豆中研修テーマ「わ・た・し」の授業の実現 ～自分事として学びを追求する生徒～

「わ」→分かりたいと思う問いのある授業、「た」→楽しさを実感する授業、「し」→主役は生徒の授業〈仮説〉生徒に付けたい資質・能力を明確にし、分かりたいと思う学習課題の提示や解決の見通しを持つための学習形態を工夫していけば、生徒が仲間と関わり合う中で、分かる喜びや学ぶ楽しさを味わい、知識を人生や社会と関連付けながら深く学ぶことができるであろう。

「わ・た・し」の授業における目指す生徒像 ～ 自分事として学びを追求する生徒 ～

①自ら学習に向かう生徒	②学び合う生徒	③力が付く生徒
・興味関心を持って主体的に学習課題に取り組む ・追求課題を持ち、学習活動をつなげる ・自分で判断し、見通しを立てる ・家庭学習に意欲的に取り組む	・他の意見を聞き、自分の考えと比較して、関わりの中で学び合いを広げる ・他と関わる力や自分の考えを表現する力を持つ	・学んだことを自分の言葉で表現する ・実社会や実生活で活用する ・学びの実感を持つ ・問いを新たに持つ ・自己の成長を把握する

(1) 「わ・た・し」授業づくり ～ 自分事として学びを追求する生徒 ～

① 「わ」→分かりたいと思う問いのある授業

- ・生徒にとって必要感のある課題や生徒が分かりたいと思う学習課題の工夫とそのための教材研究
- ・生徒の興味関心や経験、特性などの生徒理解の深化

② 「た」→楽しさを実感する授業

- ・自分の考えを表現する場や自分の言葉で振り返りをする機会の設定
- ・個別支援と評価及び授業での積極的な称揚
- ・単元構想の構造化（「学び手の視点」） ・教育のUD

③ 「し」→主役が生徒の授業

- ・付けたい資質・能力を明確にし、各教科の見方・考え方を働かせるような単元構想や授業構想
- ・個人で考える時間や意図を持ったペア活動、グループ活動など多様な学習形態
- ・学びを伝え合い、広げ、理解を深めるためのコーディネート ・ICTの活用

(2) 「特別の教科 道徳」に向けた体制づくりと指導改善

- ① 全体計画の見直しと別葉の完成、学習指導要領の理論理解、道徳推進教師のリーダーシップ
- ② 道徳ファイル・ノート、生徒の学びの蓄積及び評価の研究
- ③ 「価値理解」「人間理解」「他者理解」による発問構成の工夫（授業改善）
- ④ 多面的・多角的に考える授業、板書の工夫、研究授業、交流授業

5. グランドデザイン

令和2年度 中伊豆中学校グランドデザイン

＜国の基本理念＞
生きる力の育成
＜静岡県の基本理念＞
「有徳の人」の育成
＜伊豆市の基本理念＞
ふるさと伊豆に誇りを持ち、夢やこころざしを持って、心豊かに生きる子どもの育成

校訓 努力は必ず報われる

学校教育目標 夢を叶える

研修テーマ 学ぶ意欲を育む魅力ある授業づくり
～学び手の視点で思考・判断・表現をつなぐ～

中伊豆中学校の挑戦 《伝統の継承と未来への創造》

「授業が分かる」 という生徒90%以上	「学校が楽しい」 という生徒90%以上	「夢や自分なりの目標を持っている」 という生徒90%以上
【授業を軸とした学校経営】 課題対応能力(達成へ向かう力) 新学習指導要領を踏まえた主体的・対話的で深い学びの実践 生きて働く「知識・技能」の習得、「思考力、判断力、表現力」の育成、「学びに向かう力・人間性」の涵養、学力向上、地域教材の開発(オリバラ・ジオ学習・伊豆の文学等)小中連携学習習慣の定着、学ぶ意欲を育む学習指導、道徳科別業の活用、読書習慣の定着、ICTの活用、ユニバーサルデザイン、学習集団の鍛錬と連携、道徳教育の推進(重点内容項目 よりよく生きる喜び)	【命を守り、子どもを輝かせる教育】の推進 ・人間関係形成能力(関係構築力) ・専門委員会・縦割り活動 ・一人一人のよさと可能性を引き出す、主役は子ども ・居場所のある学年・学級経営(認め合い励まし合う) 【学校文化】の創造「6つの誇り」の重点取組 ・生徒会の活性化、部活動の充実、あいさつ運動 【地域・家庭から信頼され愛される中学校】連携 ・かたりかけ・読花使・交通安全・小中交流(あいさつ・合唱・運動会ボランティア)・保育実習・家庭教育学級・激励会・P奉仕作業・いじめの未然防止対策委員会・学校評価分析活用・SC、SSW等専門機関との連携・ステージ制の導入・マメザクラの植樹・情報発信の充実	キャリア・プランニング能力(なりたい自分になる力) 健やかな身体への育成 進路相談の充実・総合的な学習の充実 ドリーム・ビジョン夢講座、職業講話、職場体験、福祉体験、高校見学、高校説明会 学力・学習状況調査を活かした教科指導改善 特性の把握・人権感覚・心の相談体制の充実 傾聴と見取りシートを活用した不登校チーム対応 夢を育むオリバラ学習 よりよく生きるための基盤となる道徳科授業の改善 思春期講座、カウンセラー講座、性に関する授業、薬学講座



重点項目「授業改善」

「わ・た・し」の授業とは(H31より実施、市センター研修との接続)

「わ」→分かりたいと思う問いのある授業
☆生徒にとって必要感のある課題や生徒が分かりたいと思う学習課題の工夫とそのための教材研究
◇生徒の興味関心や経験、特性などの生徒理解の深化

「た」→楽しさを実感する授業
☆自分の考えを表現する場や自分の言葉で振り返りをする機会の設定
◇個別支援と評価及び授業での積極的な称揚
☆単元構想の構造化(「学び手の視点」) ◇教育のUD

「し」→主役は生徒の授業(R1より実施)
☆付けたい資質・能力を明確にし、各教科の見方・考え方を働かせるような単元構想や授業構想
☆個人で考える時間や意図を持ったペア活動、グループ活動など多様な学習形態
☆学びを伝え合い、広げ、理解を深めるためのコーディネート
◇ICTの活用

「生徒理解」

- ・「生徒について語る会」
- ・綿密な情報共有
- ・前向きな言葉掛け
- ・Q U 研修
- ・不登校理解研修
- ・生涯における学習習慣及び生活習慣の改善(食育・健康教育)
- ・心身の健康

生徒の実態

○素直 ○素朴 ○健気 ○無邪気
○行動的
○思いやりある行動
○表現力の未熟さ
▲学びへの意欲の二分化
▲配慮を必要とする生徒の増加
▲自己肯定感の弱さ
▲SNSへの依存

教職員・学校の実態

○持ち味の発揮 教科指導、分掌への創造性
○共通理解が組織力
○個に応じた配慮と共感的な生徒理解体制
○自主的なOJT、ベテランと若手の学び合い
▲一人が抱える校務分掌の多さ

地域の実態

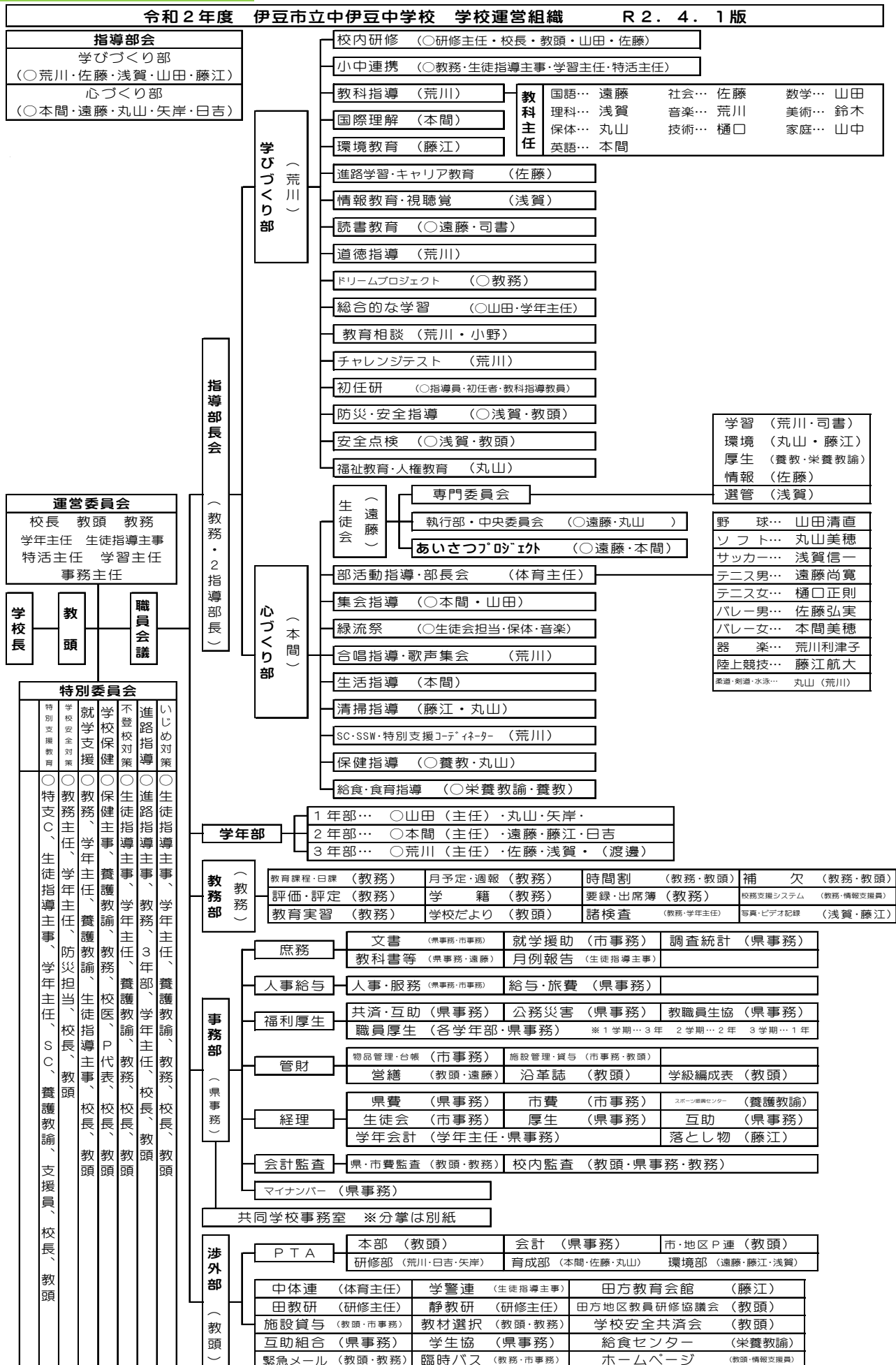
○学校教育への絶大な理解
○温かい協力体制と支援
▲施設老朽化
▲生徒数減への危機
▲多様な家庭状況

中を支える事務室

適切な予算執行と校務効率化(共同事務室)

【勤務環境改善】・勤務時間の把握 ・定時退庁日、閉庁日設定 ・会議やPTA活動の精選 ・SSSとの連携
・地域ボランティアの導入 ・教職員の家族の幸福の追求 ・日直日誌の改善

6. 学校運営組織



7. 教育課程

(1) 学期の終始・年間授業日数

学 期	始業式・入学式	終業式	授業日数	総授業日数
1 学期	4 月 6 日 (月) 4 月 7 日 (火)	7 月 2 2 日 (水)	7 4 日 (1 年生 7 3 日)	2 0 6 日 (1 年生 2 0 5 日)
2 学期	8 月 2 5 日 (火)	1 2 月 2 3 日 (水)	8 3 日	
3 学期	1 月 7 日 (木)	3 月 1 9 日 (金)	2 9 日	

(2) 時間配当表

	国 語	社 会	数 学	理 科	音 楽	美 術	保 体	技 ・ 家	英 語	小 計	道 徳	総 合 的	学 活	合 計	生 徒 会	行 事	総 時 数
1 年	143	110	143	110	49	46	115	72	143	931	38	66	38	1073	13	33	1119
2 年	144	111	111	145	39	36	115	72	145	918	38	86	39	1081	13	35	1129
3 年	111	144	144	143	39	36	115	36	144	912	38	74	39	1063	13	47	1123

(3) 週日課表

(1) 日課・週課

※ 7:20～7:40 朝の部活動自主練習

※ 7:50 には着替え・課題の提出などを済ませ、7:55 には朝読書ができるように着席する

	日 課		週 課				
	< 通常日課 > 月・火・木・金	< 特別日課 > 水	月	火	水	木	金
朝 読 書	8:00 ～ 8:15		朝 読 書・ かたりかけ	朝 礼・ 集 会		朝 読 書・ 読 花 使	朝 読 書・ チャレンジテスト
朝 の 会	8:15 ～ 8:25	8:00 ～ 8:10	朝 の 会				
1 校 時	8:30 ～ 9:20	8:15 ～ 9:05	①	⑥	⑪	⑮	⑳
2 校 時	9:30 ～ 10:20	9:15 ～ 10:05	②	⑦	⑫	⑯	㉑
3 校 時	10:30～11:20	10:15～11:05	③	⑧	⑬	⑰	㉒
4 校 時	11:30～12:20	11:15～12:05	④	⑨	道 徳	⑱	㉓
(帰 り の 会)		12:10～12:20			帰 り の 会		
給 食	12:20 ～ 12:50		給 食				
昼 休 み	12:55 ～ 13:15		昼 休 み				
5 校 時	13:20 ～ 14:10		⑤	⑩	⑭	⑲	㉔
(下 校)		14:30			下 校		
6 校 時	14:20 ～ 15:10		総 合	総 合		㉕	学 活
清 掃	15:15 ～ 15:25		清 掃			清 掃	
帰 り の 会	15:30 ～ 15:45		帰 り の 会			帰 り の 会	
放 課 後	15:55 ～		中 央 委 員 会 (月 1 回)			学 年 専 門 委 員 会 (月 1 回)	
下校 (部活なし)	16:00						

※ かたりかけ…地域の方による話(月1回) 読花使 …読み聞かせ活動(月1回)

8. 教室配置図

